

④

お寺大会 エントリーシート

出品者名

最上@町田/最上克紀

作品タイトル

フッターマンH1・2型混合式 50CA10 PTL PPアンプ

作品紹介（回路図や構成図、コスト、出品者本人のコメント・所感など）

<外道アンプ根拠>

本質的に真空管OTLアンプは外道の王道である。本アンプはその真空管OTLなので、文句なく外道であろう。真空管OTLアンプ黎明期、PT仕様不平衡電圧供給型の日本式真空管OTLアンプが外道の正道とすれば、フッターマンH1型米国式真空管OTLアンプは、PTL仕様平衡電圧供給型なので外道の外道に該当するであろう。フッターマンH1型の特徴である、小型管の平行PPを踏襲すれば、外道の正道になるので、邪道アンプを主張するからには、さらに飛躍しなければならない。小型管平行PPでもなく、OTL常道の水平出力管PPでもなく、異端として、オーディオ専用管の50CA10を1セットPPのみ使用することでOTLの外道に徹し、AC100Vラインの倍電圧整流で、±250Vの正負電圧を作成し駆動した。

<回路と部品>

PTL方式は、フッターマンH1型のコピー、初段・位相反転回路は、フッターマンH2型の6AN8定数のデッドコピー、終段管は、50CA10をバイアス-21V付近に設定し、Ipを100mA流し、Epが約±250Vほどなので、プレート入力25Wになり、大飯を食わせている。倍電圧用電界コンデンサはできるだけ大きくし、アルミ弁当箱に収めた。

<所感>

外道（OTL）の正道（日本式OTL）の外道（フッターマンOTL）の邪道（シングルPP）で異端（オーディオ用大型管）という輪廻から見て、極め付きの外道だと自負する。

注) PTL : Power Trans Less

この用紙は2枚記入し、1枚は作品に添付、1枚は事務局に提出してください。
この作品紹介を参考に大会レポートを作成します。